

2 調査会審議経過

国際・地球温暖化問題に関する調査会

委員一覧 (25名)

会 長	石井 一 (民主)	喜納 昌吉 (民主)	牧野 たかお (自民)
理 事	島田 智哉子 (民主)	郡司 彰 (民主)	丸山 和也 (自民)
理 事	主濱 了 (民主)	中村 哲治 (民主)	水落 敏栄 (自民)
理 事	富岡 由紀夫 (民主)	長浜 博行 (民主)	山田 俊男 (自民)
理 事	川口 順子 (自民)	広中 和歌子 (民主)	山下 栄一 (公明)
理 事	小池 正勝 (自民)	福山 哲郎 (民主)	山本 香苗 (公明)
理 事	加藤 修一 (公明)	神取 忍 (自民)	山内 徳信 (社民)
	青木 愛 (民主)	佐藤 正久 (自民)	
	川合 孝典 (民主)	島尻 安伊子 (自民)	(21.2.10 現在)

(1) 活動概観

〔調査の経過〕

本調査会は、国際問題及び地球温暖化問題に関し、長期的かつ総合的な調査を行うため、第168回国会の平成19年10月5日に設置された。今期3年間にわたる調査テーマを「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」と決定し、調査を進めており、第169回国会の平成20年6月9日に、第1年目の調査を取りまとめた調査報告書(中間報告)を議長に提出している。

今国会においては、国際問題に関しては、「NGOの役割」、「地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組」及び「アフリカをいかに助けるか」を、また、地球温暖化問題に関しては、「京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題－2013年以降の問題－」を、それぞれ調査項目として取り上げ、調査を行った。

まず、「NGOの役割」では、平成21年2月10日に「NGOの現状及び役割」について、政府参考人から報告を聴取し、質疑を行った。

2月25日には、「NGOの役割及び今後の課題」について、片山信彦(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン常務理事・事務局長)及び目加田説子(中央大学総合政策学部教授)の両参考人から意見を聴取し、質疑を行ったほか、「NGOの役割」について、委員間の意見交換を行った。

また、「地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組」では、4月1日に「地震等大規模自然災害及び感染症に対する国際的取組と我が国の支援の現状・課題」について、高瀬初雄(警察庁長官官房国際課課長補佐)、原修(東京消防庁警防部救助課長)、岩本愛吉(東京大学医科学研究所附属先端医療研究センター教授)及び白子順子(名古屋第二赤十字病院国際医療救護部部長)の各参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

4月15日には、「地震等大規模自然災害及び感染症に対する国際的取組の在り方」について、政府参考人から報告を、浅野壽夫(神戸学院大学学際教育機構教授)及び中村安秀(大阪大学大学院人間科学研究科教授)

の両参考人から意見を、それぞれ聴取し、質疑を行ったほか、「地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組」について、委員間の意見交換を行った。

「アフリカをいかに助けるか」では、6月24日に「アフリカ援助の現状と課題」について、富田杏子(特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド開発事業部ベナン・ブルキナファソ担当)、永岡宏昌(特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会代表理事)、船橋周(財団法人ジョイセフ広報アドボカシーグループプログラムオフィサー)及び佐渡友雄基(合同会社アースティール代表)の各参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

7月1日には、「アフリカ援助の在り方」について、大林稔(龍谷大学経済学部教授、同大学大学院経済学研究科長、同大学大学院アジア・アフリカ総合研究プログラム委員長)及び平野克己(JETROアジア経済研究所地域研究センター長)の両参考人から意見を、政府参考人から報告を、それぞれ聴取し、質疑を行ったほか、「アフリカをいかに助けるか」について、委員間の意見交換を行った。

次に、「京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題－2013年以降の問題－」では、2月18日に「北海道洞爺湖サミットからCOP14までの状況報告と今後の課題」について、政府参考人から報告を聴取し、質疑を行った。

4月8日には、「国民運動としてのCO₂削減努力」について、飯田哲也(特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所所長)、中上英俊(株式会社住環境計画研究所代表取締役所長)及び藤野純一(独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター温暖化対

策評価研究室主任研究員)の各参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

6月17日には、「低炭素社会の実現と環境分野での日本のリーダーシップに向けて」について、小宮山宏(株式会社三菱総合研究所理事長)及び枝廣淳子(環境ジャーナリスト)の両参考人から意見を聴取し、質疑を行ったほか、「京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題－2013年以降の問題－」について、委員間の意見交換を行った。

〔調査の概要〕

1. NGOの役割

2月10日の調査会では、政府参考人(外務省、内閣府及び財務省)から、NGOの現状と役割、NGOに関する法制度や税制上の支援等について報告を聴取した。続いて、政府参考人に対し、我が国における政策提言型NGOを増加させるための法制度の在り方、NGOの財政・組織基盤強化に対する政府の考え方、NGOへの国民の理解を深めるための施策の必要性等について質疑を行った。

2月25日の調査会では、参考人から、財政基盤や組織運営能力のせい弱性など日本のNGOの課題及び支援の方策、NGOと政府とのパートナーシップの在り方等について意見を聴取した。続いて、参考人に対し、国際会議における日本政府代表団へのNGOの参加状況、主にコンサルティング型の支援を行っている日本のNGOの有無、NGOで仕事をした人の引退後の進路及び欧米との比較等について質疑を行った。その後、委員間の意見交換を行い、NGOの寄附を集めるノウハウ蓄積に向けた支援の重要性、官製NGOとならないような財政支援の在り方、NGO活

動の経験がキャリアとして認められる必要性、日本のNGOの専門性強化に向けた支援の必要性、税制等によるNGOの財政支援の重要性等について意見が述べられた。

2. 地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組

4月1日の調査会では、参考人から、効果的な国際救助活動を行う上での情報収集や相手国政府との意思疎通の重要性、現場への迅速な移動手段確保の重要性、文化等複雑なアジアでの感染症対策支援に大学やNGOを活用することの有効性、感染症への緊急支援の際に必要となる相手国政府等との調整などへの支援の必要性等について意見を聴取した。続いて、参考人に対し、我が国の顔が見える援助との視点から病院船による国際貢献を検討する必要性、我が国の医療援助に対する国際的評価、国際緊急援助隊を構成する組織間での日常的な連携、交流、共同研究等の必要性等について質疑を行った。

4月15日の調査会では、政府参考人(外務省及び内閣府)から、防災及び感染症分野における二国間や国際機関を通じた協力の現状、アジア各国の災害被害軽減に向けた取組への協力の現状等について報告を、参考人から、災害支援における救助、復旧・復興、防災・減災の各段階で継ぎ目のない支援を行う必要性、保健医療分野における日本の国際協力の成果や活動実績を英語で発信する必要性等について意見を、それぞれ聴取した。続いて、政府参考人及び参考人に対し、感染症への国際的取組のため、被災国からの要請がない場合の災害支援の在り方を検討する必要性、被災国での様々な機関による

支援活動を一体的に行う必要性、災害へ迅速に対応するため災害の起因別になっている政府の援助体制を一元化する必要性等について質疑を行った。その後、委員間の意見交換を行い、国際支援に携わる人材の育成に向けた教育や将来のキャリアパス構築の必要性、日本におけるP4施設の設置、稼働の必要性、感染症予防対策等を行う際、途上国の能力レベルに応じた技術を利用して支援を行う必要性、日本の感染症対策支援や災害支援による効果について評価を行う必要性、日本の評価を高めるためNGOの支援活動を海外へ情報発信していく必要性等について意見が述べられた。

3. アフリカをいかに助けるか

6月24日の調査会では、参考人から、慢性的な飢餓、栄養不足への対策を緊急課題として認識する必要性、現地で必要な教育、環境、保健などの問題を組み合わせた包括的な教育支援の必要性、妊産婦の健康改善のための取組強化の必要性、アフリカの人々に対するビジネス教育の重要性等について意見を聴取した。続いて、参考人に対し、我が国の対アフリカODAへの要望及び期待、参考人の活動国におけるガバナンスの状況、アフリカでマイクロファイナンスが普及する可能性等について質疑を行った。

7月1日の調査会では、参考人から、貧困削減における直接貧困者へ行う人道支援やODAによるNGOや市民社会組織への支援の意義、実利に基づくアフリカとの関係構築の意義と民間投資促進をODAで支援する必要性等について意見を、政府参考人(外務省)からアフリカ支援のこれまでの取組と今後の課題等について報告を、それぞれ聴取し

た。続いて、参考人及び政府参考人に対し、人間の安全保障に対する支援と経済への支援とのバランス、アフリカの相互審査メカニズムの機能向上に日本政府が果たすべき役割、アフリカにおいて道路等のインフラ整備を行っていく必要性等について質疑を行った。その後、委員間の意見交換を行い、アジア諸国援助での成果を踏まえたアフリカ援助を行う必要性と課題、国際連帯税を検討する必要性、ガバナンス向上に資するアフリカ支援のための国際的ルール遵守の必要性、支援の現場に日本人が関与することの重要性、アフリカの人材育成を日本国内でも行う必要性、日本の得意分野である保健衛生などでアフリカ問題の解決に貢献していく重要性等について意見が述べられた。

4. 京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題－2013年以降の問題－

2月18日の調査会では、政府参考人(環境省、経済産業省、農林水産省、国土交通省、外務省及び内閣官房)から、北海道洞爺湖サミットからCOP14までの取組状況と今後の課題等について報告を聴取した。続いて、政府参考人に対し、温暖化防止関係施策についての費用対効果の検証や予算査定への反映を行う必要性、原子力発電所の新・増設についての今後の見通しと進め方、排出量取引に頼らない本質的な削減目標策定に向け我が国がリーダーシップを発揮する必要性等について質疑を行った。

4月8日の調査会では、参考人から、エネルギー転換部門の低炭素化に切り込む政策を行う必要性、省エネ意識につながる省エネ

教育の重要性、国民が削減を行う上で、科学的知見の周知や政策の「見える化」を進める必要性等について意見を聴取した。続いて、参考人に対し、再生可能エネルギーの固定価格買取制度導入を促進していくための方策、円滑なエネルギー政策推進の障害となる縦割り行政の改善策、米国におけるグリーンニューディール政策の意図及び成否等について質疑を行った。

6月17日の調査会では、参考人から、ものづくりにおける省エネが限界に近い中で、冷暖房、給湯など、日々の暮らしにおける省エネの重要性、政治が科学をベースにしたぶれない軸を持つ必要性等について意見を聴取した。続いて、参考人に対し、政府の発表した中期目標が日本の国際的地位や産業等にもたらす影響、温暖化防止運動に市民を巻き込むための具体的方法、原子力発電におけるリスク等について質疑を行った。その後、委員間の意見交換を行い、政府発表の中期目標に対し、IPCCが示す最低25%削減に近づける必要性、温暖化対策の実施と温暖化による被害という二つの国民負担の観点についての認識を深めることの重要性、林業をグリーンニューディールの柱の一つとして考えていく必要性、再生可能エネルギーを化石燃料とイコールフィッティングになるようなグリーン税制の重要性、一般国民の取組を促すため、税制、補助金等の経済的手法を活用することの重要性等について意見が述べられた。

(2) 調査会経過

○平成21年2月10日(火) (第1回)

- ・理事の補欠選任を行った。
- ・国際問題及び地球温暖化問題に関する調査のため必要に応じ参考人の出席を求めることを決定した。
- ・政府参考人の出席を求めることを決定した。
- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、NGOの役割(NGOの現状及び役割)について政府参考人から報告を聴いた後、政府参考人に対し質疑を行った。

[質疑者]

郡司彰君(民主)、川口順子君(自民)、中村哲治君(民主)、広中和歌子君(民主)、主濱了君(民主)、石井一君(会長質疑)、山内徳信君(社民)、山下栄一君(公明)、神取忍君(自民)、島尻安伊子君(自民)、丸山和也君(自民)、山田俊男君(自民)、長浜博行君(民主)、牧野たかお君(自民)、島田智哉子君(民主)

○平成21年2月18日(水) (第2回)

- ・政府参考人の出席を求めることを決定した。
- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題—2013年以降の問題—(北海道洞爺湖サミットからCOP14までの状況報告と今後の課題)について政府参考人から報告を聴いた後、政府参考人に対し質疑を行った。

[質疑者]

木俣佳丈君(民主)、加藤修一君(公明)、福山哲郎君(民主)、山内徳信君(社民)、増子輝彦君(民主)、広中和歌子君(民主)、水落敏栄君(自民)、主濱了君(民主)、山下栄一君(公明)、富岡由紀夫君(民主)

○平成21年2月25日(水) (第3回)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、NGOの役割(NGOの役割及び今後の課題)について次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑

を行った。

[参考人]

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン常務理事・事務局長 片山信彦君
中央大学総合政策学部教授 目加田説子君

[質疑者]

加藤修一君(公明)、高橋千秋君(民主)、福山哲郎君(民主)、西田昌司君(自民)、佐藤正久君(自民)、島田智哉子君(民主)、島尻安伊子君(自民)、富岡由紀夫君(民主)、大島九州男君(民主)、山内徳信君(社民)、喜納昌吉君(民主)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、NGOの役割(NGOの現状及び役割)に関する調査の概要について参議院事務局当局から説明を聴いた後、NGOの役割について意見の交換を行った。

○平成21年4月1日(水) (第4回)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組(地震等大規模自然災害及び感染症に対する国際的取組と我が国の支援の現状・課題)について次の参考人から意見を聴いた後、各参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

警察庁長官官房国際課課長補佐 高瀬初雄君

東京消防庁警防部救助課長 原修君
東京大学医科学研究所附属先端医療研究センター教授 岩本愛吉君

名古屋第二赤十字病院国際医療救援部部長 白子順子君

[質疑者]

加藤修一君(公明)、木俣佳丈君(民主)、水落敏栄君(自民)、峰崎直樹君(民主)、島尻安伊子君(自民)、主濱了君(民主)、山下栄一君(公明)

○平成21年4月8日(水) (第5回)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、京都議定書目標の達

成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題—2013年以降の問題—(国民運動としてのCO₂削減努力)について次の参考人から意見を聴いた後、各参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所 所長 飯田哲也君

株式会社住環境計画研究所代表取締役所長 中上英俊君

独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター温暖化対策評価研究室主任研究員 藤野純一君

[質疑者]

福山哲郎君(民主)、加藤修一君(公明)、喜納昌吉君(民主)、石井一君(会長質疑)、山下栄一君(公明)、主濱了君(民主)、神取忍君(自民)、郡司彰君(民主)、牧野たかお君(自民)

○平成21年4月15日(水) (第6回)

- ・政府参考人の出席を求めることを決定した。
- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組(地震等大規模自然災害及び感染症に対する国際的取組の在り方)について政府参考人から報告を聴き、次の参考人から意見を聴いた後、両参考人及び政府参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

神戸学院大学学際教育機構教授 浅野壽夫君

大阪大学大学院人間科学研究科教授 中村安秀君

[質疑者]

加藤修一君(公明)、福山哲郎君(民主)、佐藤正久君(自民)、石井一君(会長質疑)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、地震等大規模自然災害及び感染症への国際的取組(地震等大規模自然災害及び感染症に対する国際的取組と我が国の支援の現状・課題)に関する調査の概要について参議院事務局当局から説明を聴いた後、地震等大規模自然災害及び感染症への

国際的取組について意見の交換を行った。

○平成21年6月17日(水) (第7回)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題—2013年以降の問題—(低炭素社会の実現と環境分野での日本のリーダーシップに向けて)について次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

株式会社三菱総合研究所理事長 小宮山宏君

環境ジャーナリスト 枝廣淳子君

[質疑者]

福山哲郎君(民主)、加藤修一君(公明)、喜納昌吉君(民主)、西田昌司君(自民)、富岡由紀夫君(民主)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題—2013年以降の問題—(北海道洞爺湖サミットからCOP14までの状況報告と今後の課題及び国民運動としてのCO₂削減努力)に関する調査の概要について参議院事務局当局から説明を聴いた後、京都議定書目標の達成に向けた地球温暖化対策の現状と課題及び国際的な取組と日本の役割・課題—2013年以降の問題—について意見の交換を行った。

○平成21年6月24日(水) (第8回)

- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、アフリカをいかに助けるか(アフリカ援助の現状と課題)について次の参考人から意見を聴いた後、各参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド開発事業部ベナン・ブルキナファソ担当 富田杏子君

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会代表理事 永岡宏昌君

財団法人ジョイセフ広報アドボカシーグ

ループプログラムオフィサー 船橋周君
合同会社アースティ代表 佐渡友雄基君
〔質疑者〕

主濱了君（民主）、小池正勝君（自民）、
西田昌司君（自民）、富岡由紀夫君（民主）、
加藤修一君（公明）、島尻安伊子君（自民）、
神取忍君（自民）、山内徳信君（社民）

○平成21年7月1日(水) (第9回)

- ・政府参考人の出席を求めることを決定した。
- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、アフリカをいかに助けるか（アフリカ援助の在り方）について次の参考人から意見を聴き、政府参考人から報告を聴いた後、両参考人及び政府参考人に対し質疑を行った。

〔参考人〕

龍谷大学経済学部教授
同大学大学院経済学研究科長
同大学大学院アジア・アフリカ総合研究プログラム委員長 大林稔君
JETROアジア経済研究所地域研究センター長 平野克己君

〔質疑者〕

- 川口順子君（自民）、増子輝彦君（民主）、
山下栄一君（公明）、加藤修一君（公明）、
峰崎直樹君（民主）、広中和歌子君（民主）
- ・「日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮」のうち、アフリカをいかに助けるか（アフリカ援助の現状と課題）に関する調査の概要について参議院事務局当局から説明を聴いた後、アフリカをいかに助けるかについて意見の交換を行った。